

事業所名		ちゃいるどPOP		支援プログラム（児童発達支援）				作成日		令和 7 年		3 月		21 日	
法人（事業所）理念		「福祉に色をつけよう」を理念に、働く人たちが自ら良い福祉を作り上げていく事で、選択肢が増える社会にしていきたい。 また、一人ひとりの色(個性)を見つけ、それぞれに合った支援を提供する事で、自分を大切に、自分らしく生きていける社会を目指しています。													
支援方針		大人が「自ら楽しみ」子どもたちに活動や人との関わりの楽しさを伝える。 子どもたちの力を信じ、困った行動を「プラス思考に変換」する。子どもの強みから支援のヒントを得て、その子らしく過ごせる居場所作りを目指す。 そのためには、職員一人ひとりが子どもの小さなサイン・アクションを見逃さず傾聴する姿勢を持つ。													
営業時間		11 時		0 分から		17 時		0 分まで		送迎実施の有無		あり		なし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	日々の健康状態の把握として来所時の検温や様子観察等 生活リズムが崩れないように、昼食後、個々に合わせて昼寝の時間を確保し、睡眠リズムを整えられるよう支援を行う。 また、個々の成長に合わせてトイレトレーニングを取り入れたり、食事に対しての興味を持てるようにお友達と一緒に食事をとる環境を整える。 パネルシアターを活用し、歯磨きや体の洗い方など生活習慣を身に付けられる支援を行う。													
	運動・感覚	体操やダンスのプログラムに合わせて、バランスボール・立位・ベンチ座位に子供達が楽しく取りながらバランス感覚・体幹機能の向上に努めている。 感覚に対しては、足浴で感触や匂い・感触のある絵本で感覚に刺激を入れたり、音楽を通して、オーガニジーや楽器等で感覚・感触などを感じ五感を育むようにしている。 音楽遊びでは、手先の運動の向上にも繋げていく。 また、お天気の良い日は、お散歩に出かけ体力の向上に努めている。													
	認知・行動	視覚や聴覚の情報を元に、必要な情報を入手し、今、行う行動の手掛かりであったり、自立に向けた行動が行えるよう認知、適切な行動の習得 活動や切り替え時に、タイマーや音楽を活用しお片付けをしたり、次の活動の準備が出来るように区間の環境を整えている。 一日のスケジュールや今日一緒に過ごすお友達の数や数えたり、日付確認を行い、数や時間・文字の認知の習得を図るよう支援を行う。													
	言語 コミュニケーション	コミュニケーションの基礎として絵カードを活用し、お互いの理解の共通を持ち、意思疎通を図れるよう支援を行う。 自ら表現出来る力を育むよう、人に伝える場面を提供したり、みんなの前に出てお手本をする場面を作り、個々にあった表現力を見つけ自発的に発信する力が引き出せるよう努めている。 個々に合わせた、コミュニケーションツールの構築に努めている。													
	人間関係 社会性	集団生活を通して、お友達との関わりや社会生活を身に付けていける力を育てている。 個々に合わせて、集団行動の「待つ」「座る」「活動に参加する」を視覚支援でわかりやすく表記し、少し苦手なことにも取り組み「頑張れた」など達成感を味わい社会性を育むよう努める。 また、活動を通してお友達と手をつないだり、お友達との遊びを通してごっこ遊び、おもちゃの貸し借りなどのやり取りを通して相手に対しての思いやり、人や物に対する興味・関心を引き出せるよう努めている。													
家族支援		子育てに関する困りごとの相談援助。こどもの成長の共感・確認。 個別の面談等の実施						移行支援		ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備 地域の交流・移行先(保育園・幼稚園・学校)との情報交換					
地域支援・地域連携		相談支援事業所との連携 教育機関の関係者との連携 年1回の地域イベントに参加						職員の質の向上		外部研修 事業所内研修 支援に対する勉強会や意見交換など					
主な行事等		お誕生日会(誕生月に実施)・地域イベント(年1回)・事業参観(年1回)・保護者会(年1回)・外出(不定期)・クリスマス会・避難訓練(年2回)													